

## 受験地図は変わるか？

愛知県の公立高校入試制度である複合選抜の群・グループ分けが平成19年度入学者（現在の中2の受験時）から一部変更されます。最も大きな変更点は、普通科に1・2群共通校という高校が設定され、かなり組み合わせの自由度が増したという点です。

一見いろいろな受け方ができるようですが、よく見るといわゆる中上位校（内申点オール4以上）に共通校はほとんど無く、公立普通科としてはオール3以下のレベルの高校に集中しています。このレベルの受験生は公立普通科・公立専門学科・私立普通科のなかで進路を悩む層であり、この変更は、近年定員割れもおこしている公立普通科校へのでこ入れの感があります。

さて、この地区（春日井高蔵寺地区）の視点から見てみましょう。

従来この地区の受験生は、基本的に尾張1群志望が中心でした。それは春日井高校が尾張1群であったため、旭丘－菊里－春日井－春日井東－瀬戸北－守山の系列で公立普通科の組み合わせを考えていました。高蔵寺高校は尾張2群であったため、明和－千種－高蔵寺－春日井南の系列になり、春日井が内申36以上、高蔵寺が34以上くらいの差で受験者が集まっていたようです。

今回、春日井高校が高蔵寺高校と同じ尾張2群Aグループになりました。また、春日井東高校が1・2群共通校になり、瀬戸北・守山も尾張2群になりました。こうなると尾張2群系列で、明和－千種－春日井・高蔵寺－春日井東－瀬戸北－守山の流れが最も自然な選択になります。今までは春日井市から旭丘や菊里に多くの合格者が出ていましたが、この変更により菊里を第1志望にした場合の第2志望校がこの地区には無くなるので、おそらく今後は大幅に合格者数を減らすと思われる。

さらに春日井と高蔵寺が同じ群・グループになったことで、従来通りこの2校を組み合わせで受験することはできませんが、第1希望に2校のいずれを選択するかが、他の要因に関わりなくできるようになりました。今まで菊里－春日井と受験していた層がどのような組み合わせを考えるかですが、この地区からの交通アクセスから見て、春日井高校はいままでもやや人気がありませんでした。あくまでも予想ですが、数年のうちに春日井高校と高蔵寺高校のランクは逆転するのではないかと思います。これは学校群から複合選抜に変わり、中村高校と名古屋西高校が同じ群・グループになったときと似ています。学校群のころは明和と組んでいて、名大合格者数は明和をしのぐほどであった中村高校でしたが、やはり地理的条件の悪さのためか、ここ2、3年は第1志望者数が減少し、高校入試のレベルとしては、名古屋西高校に逆転を許してしまっています。

いずれにしてもこの変更は、この地区の受験生にとっては激震といっても過言ではありません。どう変わっていくのか、やはり安定するまで数年はかかると思います。